

第4回総会・交流集会 in 東京

★ 第1日 (5月10日) 日本教育会館 (3階 一ツ橋ホール)

開会 (13時00分)

司会 藪本 雅子

主催者挨拶 (13時～13時10分)

◇ 國本 衛 ハンセン病市民学会共同代表 (東京集会実行委員会委員長)

歓迎挨拶 (13時10分～13時25分)

- ◇ 佐川 修氏 多磨全生園入所者自治会会長
- ◇ 渡部 尚氏 東村山市長 (予定)
- ◇ 月川 由紀子 東京都福祉保健局感染症危機管理担当部長

総会 (13時25分～13時55分)

- ◇ 事務局長報告 活動報告・活動方針
- ◇ 事務局次長報告 決算報告・予算報告
- ◇ 役員改選方法の提案

《 休憩 5分 》

シンポジウム (14時～18時)

統一テーマ「“療養所の社会化”の意義を考えよう」

◇ パネル1 今、なぜハンセン病問題基本法なのか? (14時～15時40分)

コーディネーター 内田博文 九州大学法学研究院教員
パネリスト 神 美知宏 全国ハンセン病療養所入所者協議会事務局長
志村 康 菊池恵楓園入所者自治会副会長
徳田靖之 ハンセン病国賠訴訟西日本弁護団代表
東 俊裕 弁護士/日弁連差別禁止法調査研究委員会委員

《 休憩 20分 》

◇ パネル2 共生の場としての療養所の“社会化”を実現するために (16時～18時)

コーディネーター 遠藤隆久 熊本学園大学教員
パネリスト 森 和男 大島青松園入所者自治会会長
研 雄二 ハンセン病国賠訴訟全国原告団協議会代表
青木美憲 前邑久光明園医師
神谷誠人 ハンセン病国賠訴訟瀬戸内弁護団
富田めぐみ 社会福祉法人ヒューマンライツ福祉協会
中村千佳子 神戸市保健福祉局総務部計画調整課調整課係長
廣川和花 大阪大学総合学術博物館助教
亀浜玲子 宮古市議会議員

全原協・全療協・弁護団・ハンセン病市民学会主催

◆ 国賠訴訟勝利7周年記念レセプション ◆ (18時30分～21時)

日本教育会館 (9階 喜山倶楽部)

※ 一般会員：事前申込者4,000円/当日参加者5,000円

学生会員：2,000円

※事前申込は、東京集会実行委員会の専用振込用紙をお願いします。

※専用用紙がない場合は、専用郵便振替口座 (表紙参照) までお願いします。

★ 第2日 (5月11日) 多磨全生園 (各分科会・部会の会場は当日ご案内します)

《交通手段のご案内》

- ◇ 西武池袋線・新宿線をご利用の方は、西武バスのご協力で当日最寄りの西武池袋線清瀬駅・西武新宿線久米川駅から路線バスが増発されます。

午前の部 (9時30分～12時)

[分科会A] 会場：コミュニティーセンター (公会堂) 収容：300～350名

◇ リニューアル資料館を考える

コーディネーター 藤森 研 朝日新聞編集委員
パネリスト 鈴木眞理 青山学院大学教員
鈴木禎一 多磨全生園入所者/元全患協事務局長
佐川 修 多磨全生園入所者自治会会長
藪本雅子 元日本テレビアナウンサー
成田 稔 国立ハンセン病資料館館長

[分科会B] 会場：中央集会所 収容：120名～

◇ 胎児標本問題から私たちが学びとるべきものは何か

コーディネーター 訓覇 浩 真宗大谷派解放運動推進本部委員
インタビュー 安 達 壬 多磨全生園入所者
堤 良蔵 多磨全生園入所者
上野正子 星塚敬愛園入所者
玉城しげ 星塚敬愛園入所者
パネリスト 並里まさ子 おうえんポリクリニック院長
松原洋子 立命館大学大学院先端総合学術研究科教員
宮坂道夫 新潟大学教員
久保井撰 ハンセン病国賠訴訟西日本弁護団

[分科会C] 会場：国立ハンセン病資料館映像ホール 収容：200名～

◇ 戦争とハンセン病

コーディネーター 森川恭剛 琉球大学教員
パネリスト 国宗直子 小鹿島更生園・台湾楽生院補償請求弁護団代表
金 泰九 長島愛生園入所者
吉川由紀 ハンセン病問題ネットワーク沖縄
林 博史 関東学院大学教員
藤野 豊 ハンセン病問題ふるさとネットワーク富山

午後の部 (13時～16時)

◇ 各部会企画・総会 ★ 一般参加自由です。

◎ 青年・学生部会 会場：一般介護棟

テーマ：「青年たちが考えるーハンセン病問題のいまー
日本とアジア・世界/国境線を越えてつながる思い」

◎ 宗教部会 会場：真宗会館和光堂 (多磨全生園)

第1部 (13:00～13:45) 総会 (活動報告、会計報告、その他)

第2部 (14:00～16:00)

ミニシンポジウム 「救済の客体から解放の主体へ」

コーディネーター 齊藤 真 (宗教部会幹事)
各教団の療養所との関わりや私立療養所についての歴史的検証等をふまえ、
将来構想も意識しながら、これからの療養所との関係のあり方について考える。

◎ 家族部会・東京集会実行委員会合同企画 会場：中央集会所

第1部 (13:00～15:00)

シンポジウム「ハンセン病病歴者と家族ーその関係回復をさぐる」

コーディネーター 内藤雅義 (ハンセン病国賠訴訟東日本弁護団/死後認知訴訟弁護団)
入所者・退所者・家族がどんな体験や思いをもっているか、対話を試みる。
ハンセン病政策が病歴者と家族との関係を崩壊させた実態を明らかにし、国、そして
市民がその回復に向けて何ができるのかを探る。

基調講演：林 力 (九州大学非常勤講師)

第2部 (15:00～15:30) 家族部会総会

◎ 教育部会 会場：厚生会館

テーマ：「教科書の中のハンセン病」

◎ 図書・資料部会 (13:00～16:00) 会場：福祉会館

講演 加賀乙彦 (作家) 「ハンセン病文学」の意義と魅力

総会 活動報告と役員改選

討論 資料館は博物館か、文書館か、図書館か

問題提起者 瓜谷修治 療養所の資料保存の現状 (瀬戸内三園を中心に)
未定 公文書館などの資料保存と公開の現状

◇ “フィールドワーク in 多磨全生園” (資料館見学ツアー、園内フィールドワーク)

◎ 13時と14時の2回実施予定 (1日目の申し込みカウンターにてお申し込み下さい。)